グローバル経営戦略とビジネスインテリジェンス
—ビジネスインテリジェンスの活用法 —
Global Business Strategy and Business Intelligence
-Management of Business Intelligence-

中川 十郎 1）

要旨

ビジネス インテリジェンス（高度経済、経営情報)のグローバルビジネス、経営戦略への適用に関し、その歴史とグローバル経営戦略への活用について具体的事例を基に、これまでの 32 年間、183 回（研究会参加者累計 16,000 人、講師累計(600 人)の「日本ビジネスインテリジェンス協会」(Business Intelligence Society of Japan) での研究成果を基に、論考する。

キーワード：ビジネスインテリジェンス、グローバルビジネス、情報の収集、分析、活用、リスクマネージメント、危機管理、情報の機密保持、ビジネスインテリジェンス理論、情報監査、ＡＩ、ＣｈａｔＧＰＴ

1 はじめに

日本では情報に対する研究が欧米諸国に比べ、遅れている。また情報分析、活用も政、官、学、財界においても諸外国に比べ、大幅に遅れている。情報はただとの認識で，情報(Information)と情報を分析、付加価値を付けたインテリジェンス(Intelligence)の違いも認識が希薄である。

BIG DATA, ＡＩ（人工知能)、Chat GPT が急速に広まり、さらに SNS が氾濫、Fake News も拡大している。

そのような現状下、情報、とくにビジネスインテリジェンス（高度経済、経営情報）の収集、分析、活用法の習得は、高度情報化時代を迎え、必須となりつつある。

以下、特にグローバル化時代のビジネスインテリジェンス活用について、実例も交えつつ論じたい。

インテリジェンス、情報論の観点から見た場合、官民とも政策決定に際し、その意思決定の基礎、基盤となるべき情報、すなはちインテリジェンスの収集、分析、活用が十分なされていないように見える。よって。我が国の政策決定や企業内外の経営戦略策定は不十分な情報と情報分析不足により危機的状況にあるといえよう。

古来、日本に於いては「空気」、「水」、「情報」はただとの意識が強い。それゆえ、情報収集に十分な資金、人材を投入せず、さらに収集した情報の情報源精査、情報分析、情報監査も十分しないまま、政官民とも安易に政策決定している傾向が強い。

2．日本の三つの敗戦、「武力敗戦」、「金融敗戦」、「情報敗戦」

日本は過去、三つの敗戦を経験している。一つ目が太平洋戦争での 1945 年の「武力敗戦」である。

特に、ミッドウエー敗戦は旧日本海軍の情報敗戦の典型例とみなされている。情報を軽視し、精神力で戦った日本軍に問題があったと思われる。

二つ目が 1990 年代からの我が国経済の長期低迷で、これは「経済、金融敗戦」である。90 年代以降、実に 30 年にわたり、日本経済は低迷を続け、経済学者の野口悠紀雄氏などは著書『日本が先進国から脱落する日』や、投資家のジムロジャース氏も『捨てられるに日本』でこのままでは日本は衰退するばかりで立ち直れないのではと日本の将来に対し悲観的な見方である。

さらに 2008 年のリーマンショックは日本経済衰退に追い打ちをかけ、日本の不動産、とくに、主要銀行に壊滅的打撃を与え、主力銀行は生き残りのために軒並み合併に追いまれた。

かって、日本は 1980 年代後半、筆者のニューヨーク駐在時代、米国を追い詰め、世界で 1~2 位の競争力を有